新日軽　樹脂製竹垣 竹つづり

施工説明書番号 ME-1560
改-1

門扉 施工説明書

この度は、当社製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。
正しい施工をしていただく為この施工説明書をお読みください。
施工完了後はお施主様へお渡しください。

■ 安全にお使いいただくために必ずお守りください。

この施工説明書に示した注意事項は、安全に関する重要な内容を示しています。人身事故や財産への損害を未然に防止するため次のような絵表示をしています。

絵表示	意味	絵表示	ご使用上の注意とお願い
⚠注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると使用者が負傷する危険や物的損害の発生することを表しています。	❗	「必ず行なっていただくこと」を示しています。

⚠注意

- 開閉操作の際には、手足や衣服などをはさまれないよう注意してください。はさまれると怪我をする恐れがあります。
- 門扉を揺すったり、乗ったり、寄りかかったりしないでください。
- 開閉操作の際は、周囲に人や物がないことを必ず確認してください。又、開閉操作はゆっくり行ってください。扉に人がはさまれ、事故の発生する恐れがあります。特にお子様にはご注意ください。

❗使用上のご注意について

- 樹脂は弱酸、弱アルカリ、食塩水、アルコール（水でうすめたもの）には優れた抵抗性を持っていますが、濃酸、濃アルカリ、又シンナー、ベンジン等の有機溶剤や石油類は、使用しないでください。
- 門扉の近くで殺虫剤、除草剤は使用しないでください。スプレータイプで石油系、フロン系の場合、接触すると変形、割れを生じることがあります。
- 樹脂は、微小火源では着火しにくくなっていますが、火気には十分にご注意ください。　又、70℃以上になると変形しますので、近くで焚火をしたり高温のものを近付けたりしないでください。
- 表面が汚れた時は水洗いしてください。洗剤を使用する際は中性洗剤を水でうすめて使用し、よく水で洗い流して拭きとってください。

樹脂製品のお手入れ方法について

年に数回の水洗いと、空ぶきだけでも効果的です。
ただし、工業地帯や海岸の近くなどでは、状況によりお手入れの回数を増やしてください。

汚れが軽い場合：やわらかい布かスポンジで水ぶきした後に空ぶきしてください。
汚れが目立つ場合：中性洗剤を薄めた液で汚れを落し洗剤が残らないように水洗いしてから空ぶきしてください。

施工上のご注意

当社のアルミ製品はJISの表面処理規定を十分クリアした製品をお届けしていますが、取扱によっては異常腐食を起こし思わぬトラブルとなりますので、施工にあたっては次のような点を注意してください。

(1) モルタル用に**海砂**を使用されますと、塩分が多量に含まれていますから腐食の原因になりますので、その使用を避けていただくか、十分水洗いしたものを使用してください。
(2) モルタルやコンクリートの**抽出液**は強アルカリ性で、しみやむら等の外観不良や腐食の原因になりますので工事中に商品の表面に流れないように注意してください。
(3) モルタルやコンクリートの**急結剤**は腐食の発生や促進作用がありますのでその使用を避けていただくか、塩化カルシウムや塩素系の化合物・硅酸ナトリウム等の入っていないものを使用してください。
(4) 施工時に商品の表面に**付着したモルタルやコンクリート等**は速やかに清掃してください。また、アルミ表面にキズをつけますと腐食しやすくなりますので取扱いには十分注意してください。
(5) アルミ製品と異種金属が接触しないようにしてください。接触する場合にはビニールテープ等を貼るか塗料等で絶縁処理をしてください。
(6) 腐食の恐れのある**接着剤や化学薬品**を施工上使用する場合は、アルミ製品と接触しないようにしていただくか、接触する部分を完全に養生してください。
(7) 輸入木材には塩素イオン等の腐食成分が多く含まれているものがありますので、その使用を避けていただくか、アルミと接触する部分には木材に塗装するようにしてください。
(8) 柱内部にモルタルやコンクリートが入らないように施工時に注意してください。
(9) 基礎施工の際は地下の埋設物にご注意ください。また寒冷地はその地域にあった基礎工事をしてください。
(10) 地盤が軟弱な場合は、柱の埋め込み深さ、フーチングの大きさを考慮してください。

＊汚れ、ホコリが付着した場合には、軽く水で流すかテープ等の接着面で軽くたたくようにしてください。

■ 目　次

使用上のご注意について・・・・・・・・・P1
梱包明細・・・・・・・・・・・・・・・・P2
納まり図・・・・・・・・・・・・・・・・P3
組立手順・・・・・・・・・・・・・・・・P3
開きの確認　・・・・・・・・・・P3
部品の取付けと柱の埋込み　・・P3
扉の吊り込み・・・・・・・・・・・・・・P5
ヒンジの調整・・・・・・・・・・・・・・P6
戸当りキャップの取付け・・・・・・・・・P6
戸当りの取付け・・・・・・・・・・・・・P7
吊り元カバー・ちり隠しカバーの取付け・・P7
捨てビスの取付け・・・・・・・・・・・・P8

梱包明細

扉本体

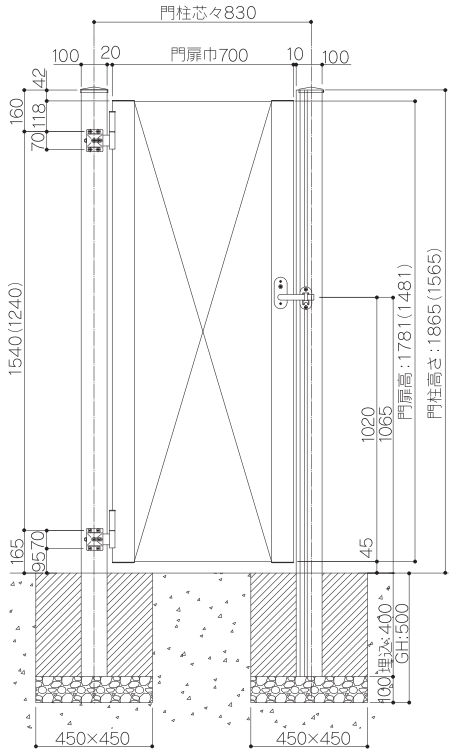
部材名称	両面･片面	パネル寸法 巾区分	パネル寸法 高さ区分	入数	梱包内容
建仁寺垣門扉	両面	700	1500	1枚	扉①
		700	1800	1枚	
御簾垣門扉	両面	700	1500	1枚	
		700	1800	1枚	
清水垣門扉	両面	700	1500	1枚	
		700	1800	1枚	
大津垣門扉	両面	700	1500	1本	
		700	1800	1本	

門柱セット

部材名称	両面･片面	パネル寸法 巾区分	パネル寸法 高さ区分	入数	梱包内容
門柱セット	片開き用	-	1500	1セット	吊元門柱①、戸当り門柱①、戸当り①、吊り元カバー①、ヒンジ②、フェンス接続金具一式 門柱キャップ②、縦框キャップ④、 施工説明書
		-	1800	1セット	

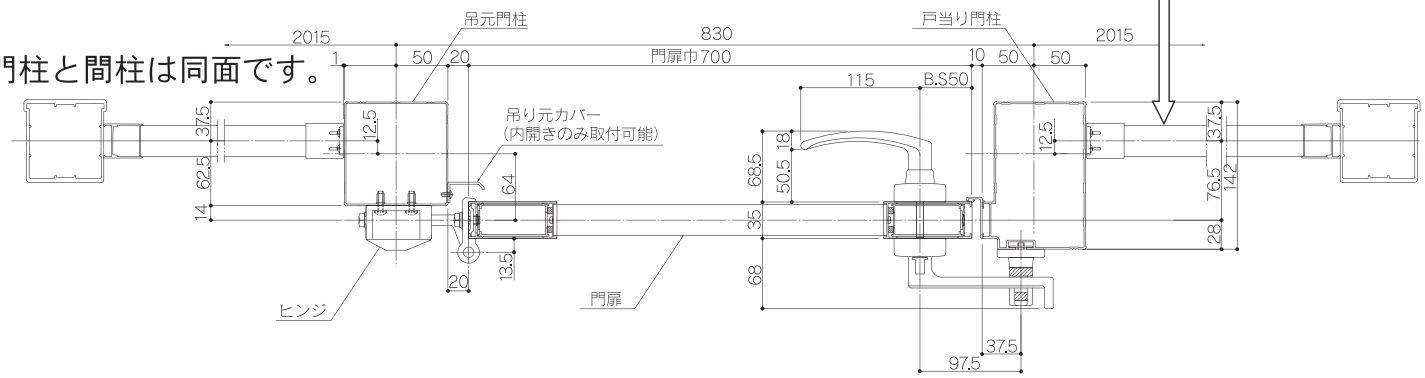
納まり図

※本図はH18を示し、H15は( )内に示す。



※門柱への竹垣フェンス取付け方法は、間柱タイプ
施工説明書(ME-1558)を参照してください。

門柱と間柱は同面です。

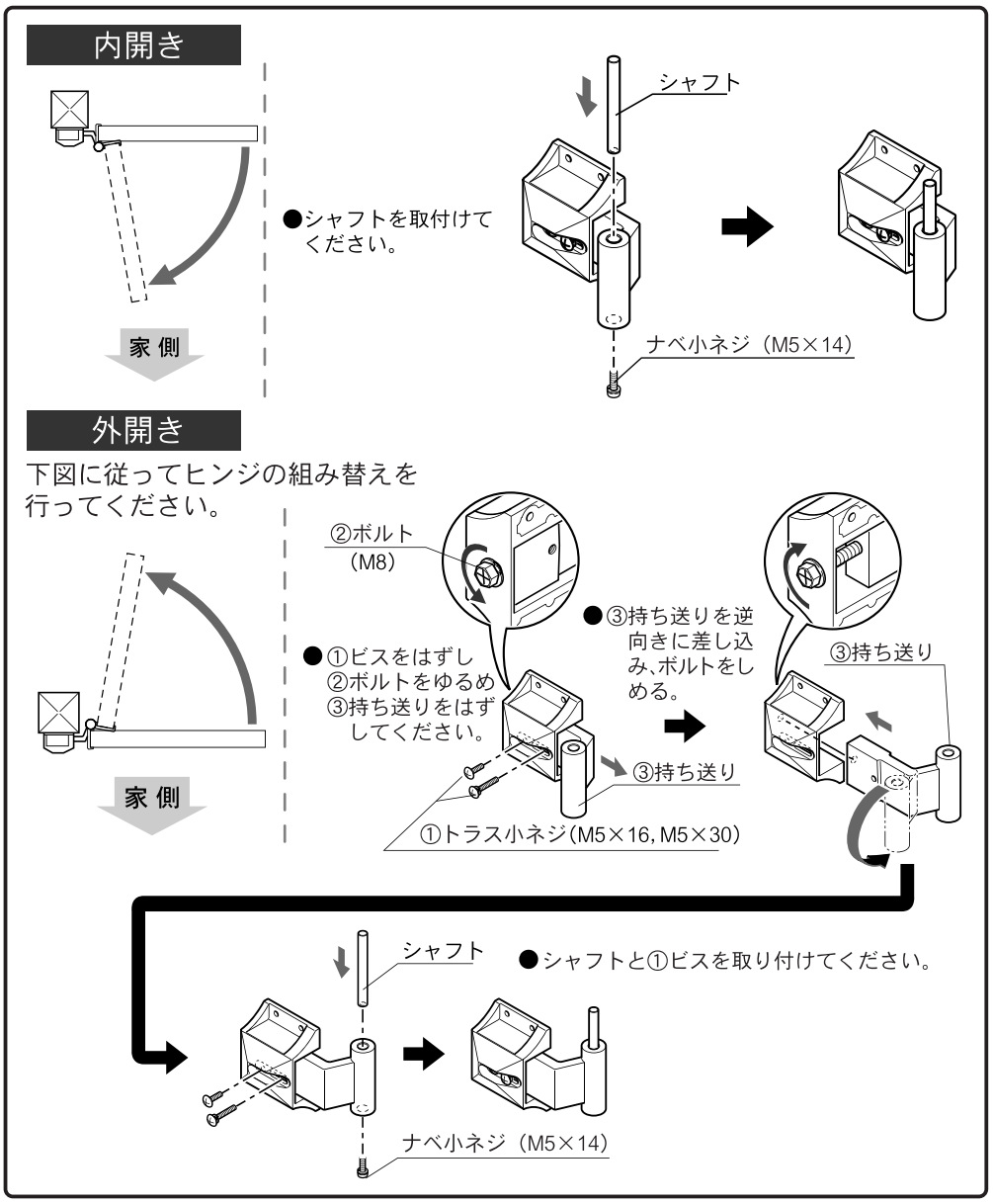


組立手順

1 開きの確認

※ 施工に取り掛かる前に、門扉の開き勝手を確認してください。
当社のヒンジは、現場で組み替えを行うだけで内開き、外開きに対応出来ます。

外開きの場合は、吊り元カバーの取付けができません。



2 部品の取付けと柱の埋込み

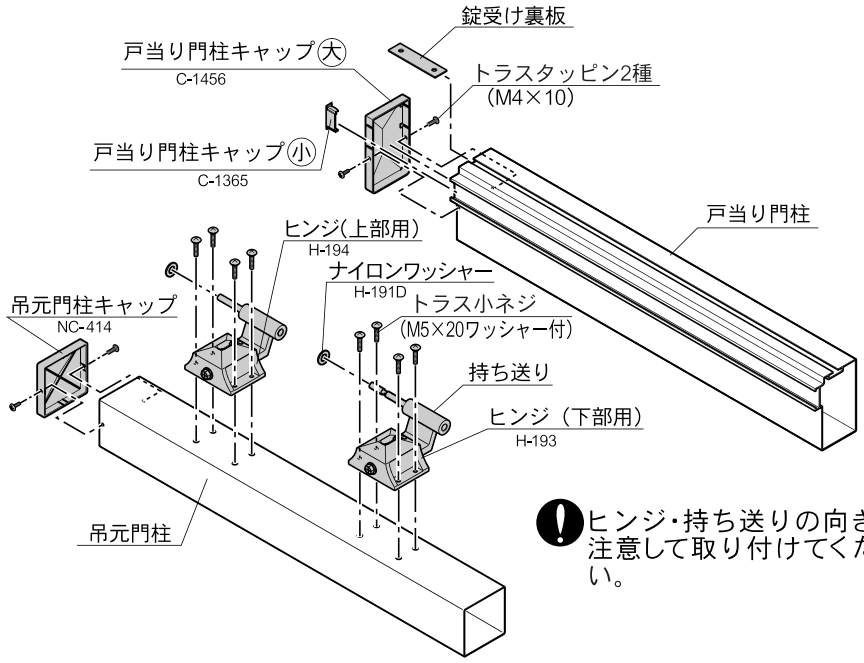
1) 部品の取付け

戸当り門柱キャップ、および吊り元門柱キャップを、フェンスが付く場合はフェンス取付け後取付けてください。

ヒンジには上部用と下部用があります。上下を確認して取付けを行ってください。

ヒンジ上部用　　ヒンジ下部用

●ヒンジが家側にくるように門柱を施工してください。
※戸当り門柱キャップの取付け前に錠金物梱包内の錠受け裏板を挿入してください。又、落ちないようテープなどで仮止めしてください。
※門柱には「右勝手」「左勝手」はありません。施工の際、現場条件にあわせ戸当り門柱及びヒンジの向きを決定してください。（戸当り門柱は、上下反転して勝手を変えます。）



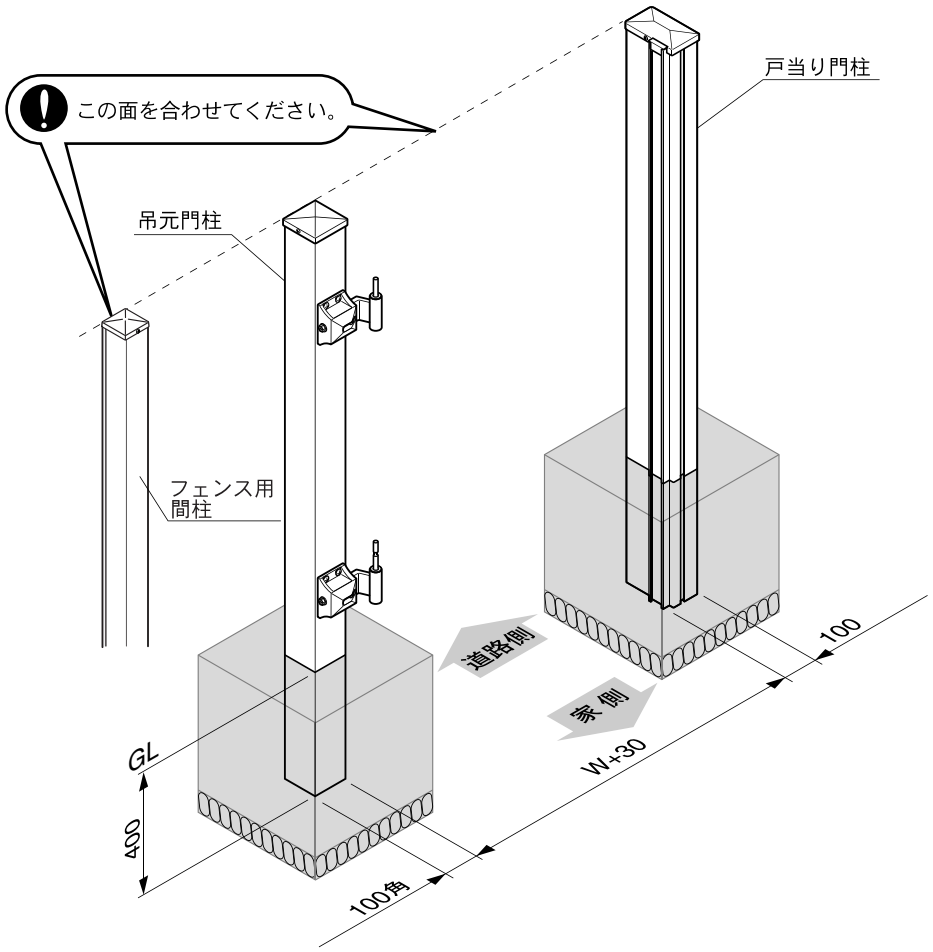
ヒンジ・持ち送りの向きに注意して取り付けてください。

2)柱の埋込み

●右図を参考に柱を埋込んでください。

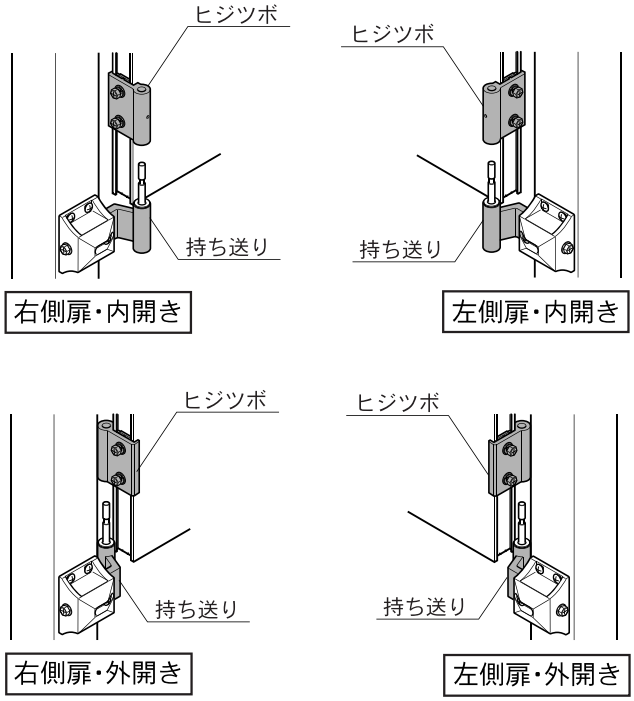
⚠ 注意

- 門柱の埋込みは、レベル合わせを正確に行ってください。扉の吊り込みができなかったり、施錠不良の原因になります。
- コンクリート打ちは、パネル吊り込み後、位置を決めてから行ってください。



3)ヒジツボと持ち送りの向きの確認

●1.開きの確認で、ヒンジ取付けの確認を行いましたが、その開きに合わせてヒジツボの向きを決めてください。



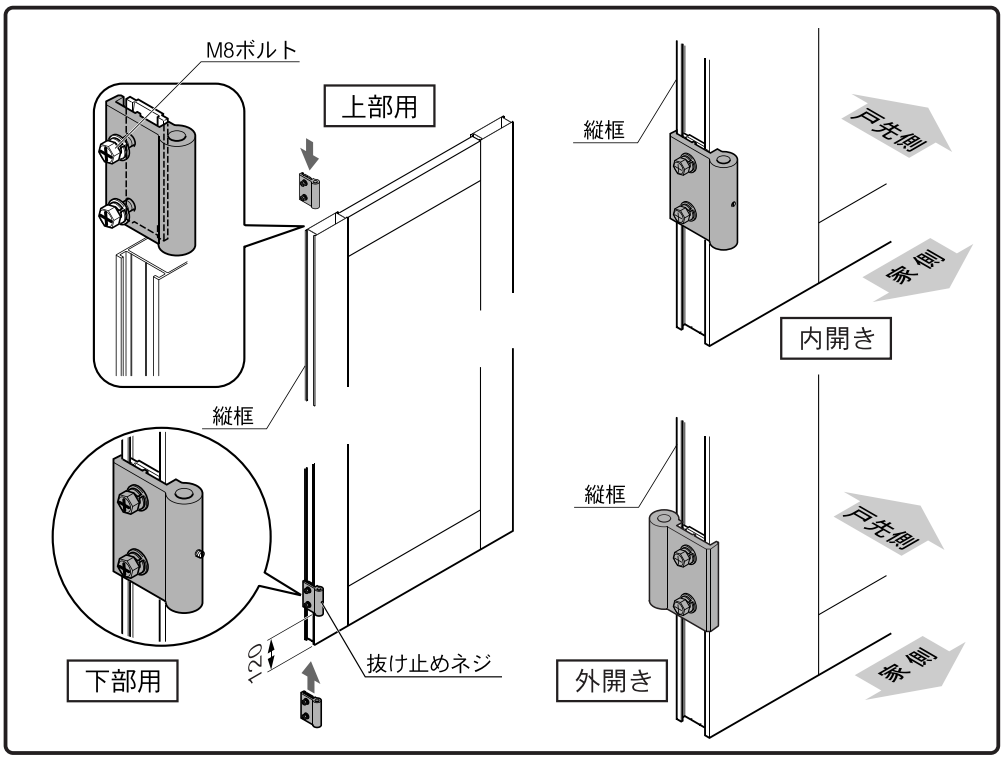
3 扉の吊込み

1)ヒジツボの取付け

● 工場出荷時に仮組みされていますので、先に⊕ドライバーでボルトを少しゆるめてください。

● 扉本体の縦框のミゾに上部用は上から､下部用は下からそれぞれ挿入し､任意の位置に仮止めします。

ヒジツボには､上部・下部用があります｡下部用には抜け止めネジが付いています。



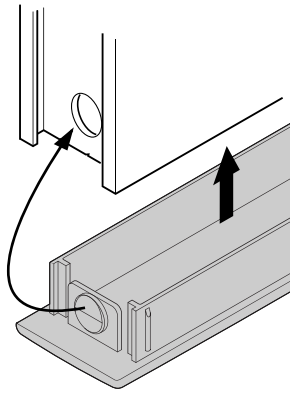
2)縦框キャップの取付け

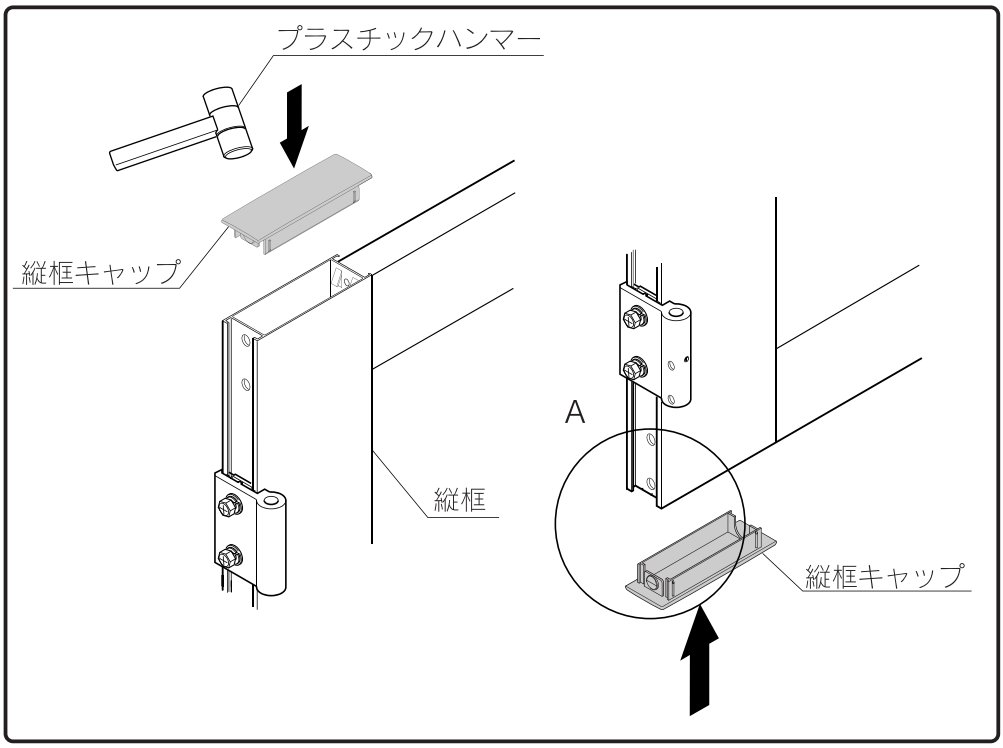
⚠ 注意

キャップの取付けには､プラスチックハンマー等をご使用ください。

A部詳細

キャップの丸い突起部分を框の孔に入れる様に取り付けてください。





3)扉の吊込み

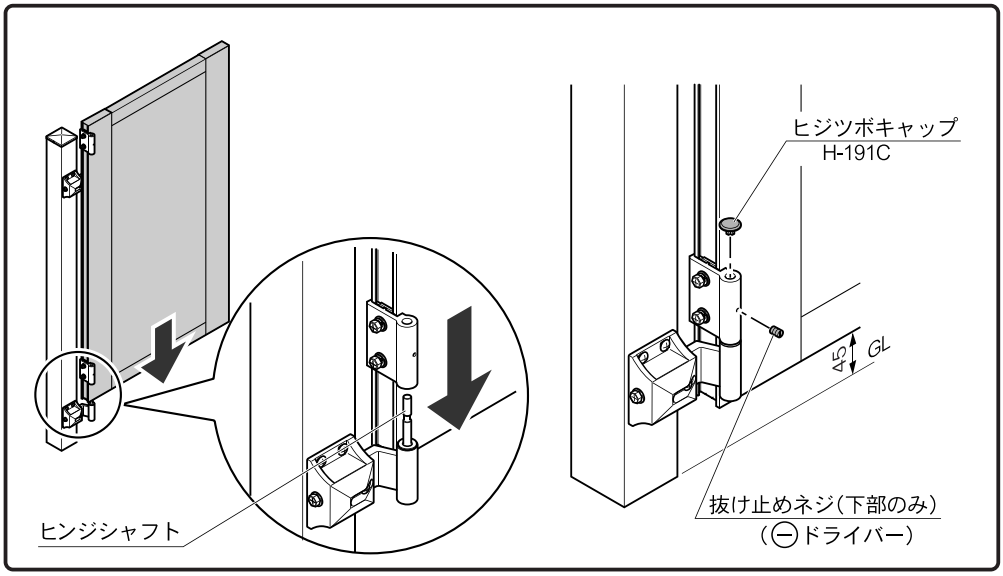
ポイント

ヒンジシャフトは下部が長くなっていますので､下部のヒンジを先に挿入すると作業が楽に行えます。

ヒジツボと持ち送りの向きに注意

4)ヒジツボキャップ・抜け止めネジの取付け

● 扉下部とGLが45㎜であることを確認してください。



4 ヒンジの調整

● 戸当り･錠など、他金物取付け完了後に各基準寸法･扉の水準などがそろっているか確認・調整してください。

⚠ 注意

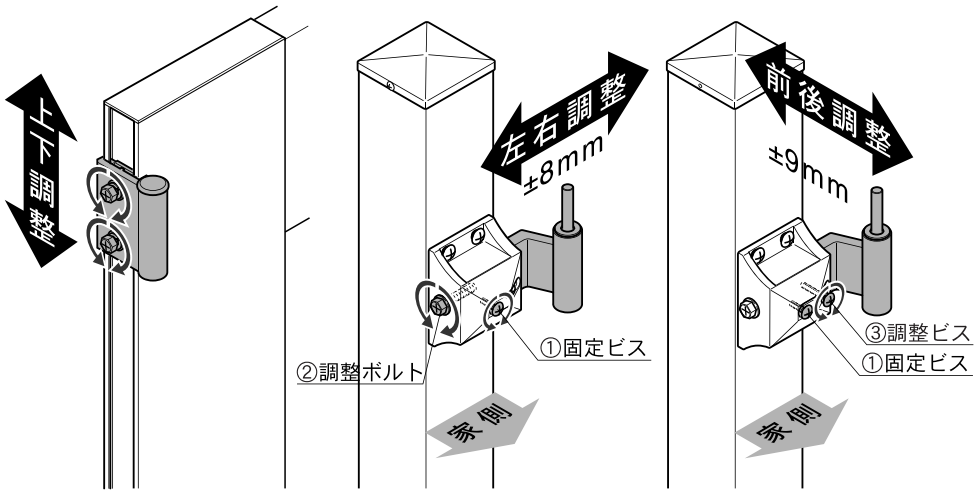
電気ドライバー等で作業を行わないでください。又、無理にボルト・ビスをまわさないでください。破損の原因となります。

1) 調整が完了しましたら固定ビスを締め込み、ヒンジを確実に固定してください。すべてのビス・ボルトが確実に固定されているか確認してください。

●ボルトをゆるめて調整してください。

●①固定ビスをゆるめ②調整ボルトをまわして調整ください。

●①固定ビスをゆるめ③調整ビスをまわして調整してください。

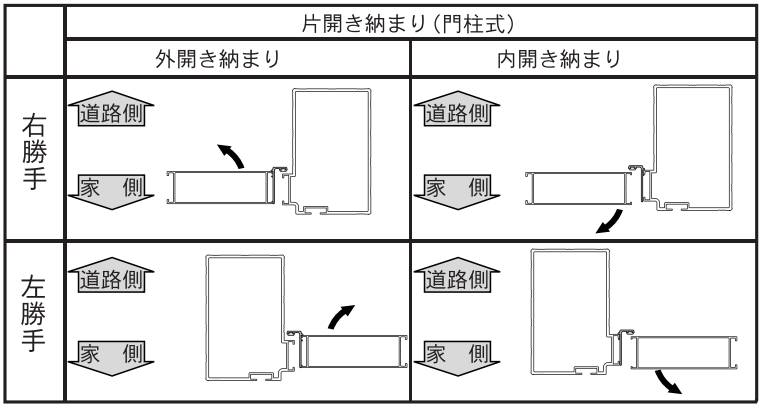


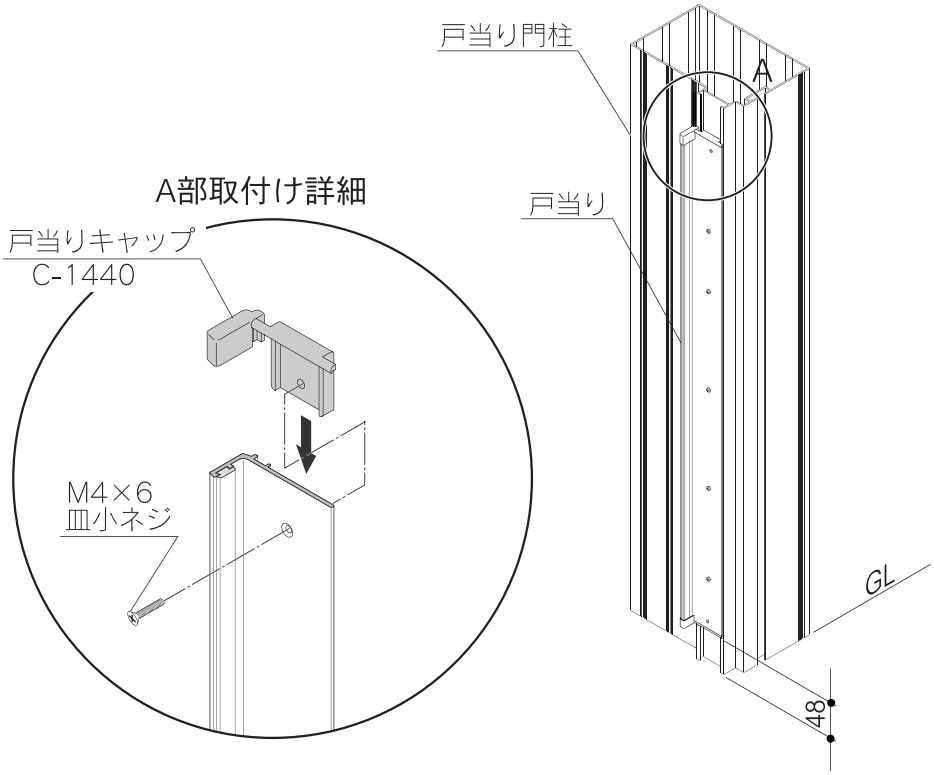
※錠の取付けは、錠梱包内のマニュアルを参照してください。

5 戸当りの取付け

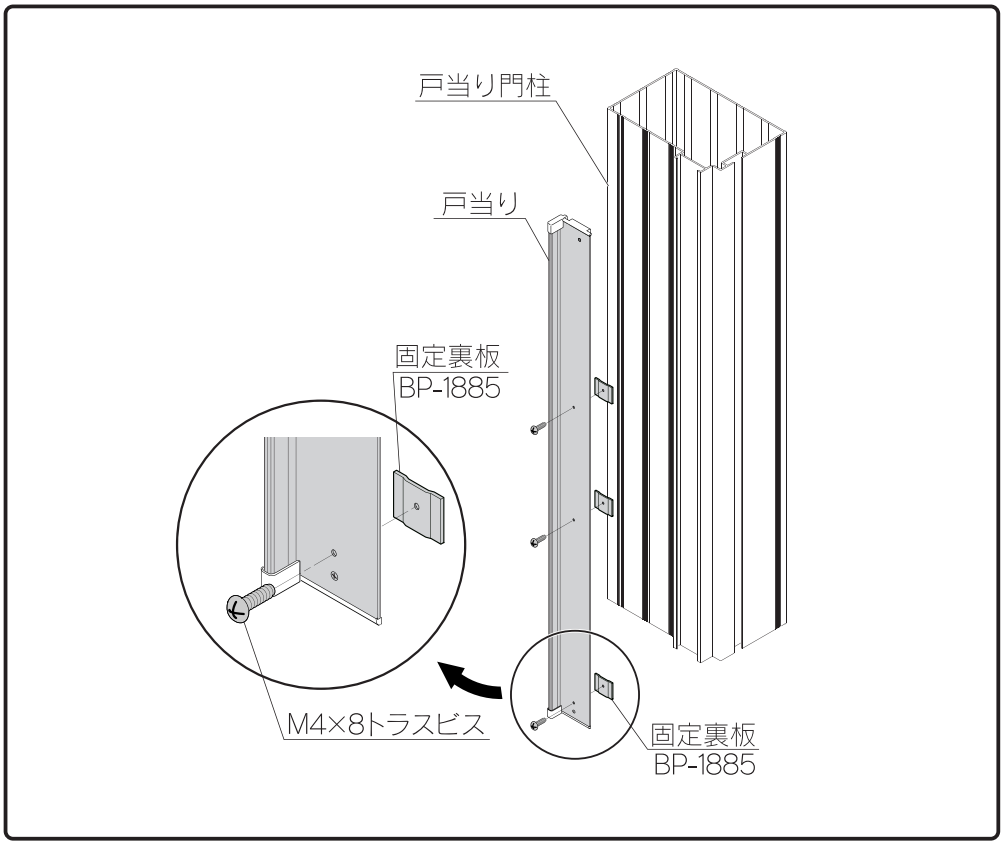
● 戸当りを取付ける前に外開き、内開き、右勝手、左勝手を確認し下記の納まり表で向きと位置を決めてください。

1) 戸当りの上下部に戸当りキャップを取付けてください。





2) 戸当りに固定裏板をM4×8トラスビスで仮止めしてから、戸当り門柱または、縦框の溝部へ取付けてください。



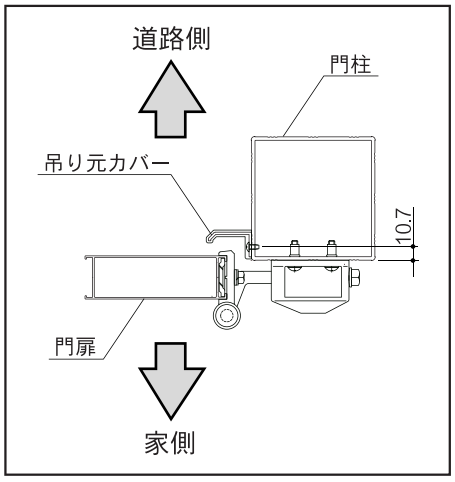
6 吊り元カバーの取付け

※ 門扉の吊り込み後に取付けてください。

ポイント

扉を開けた状態で吊り元カバーを門柱へ取付けてください。

2) 吊り元カバーとちり隠しキャップをM4×16セルフドリリングビスで取付けてください。



※本図は、門扉を開いている状態を表しています。
取付け孔：4個

門扉のレベルに合わせる。

ちり隠しキャップ
C-1366

M4×16ナベ
セルフドリリングビス

門柱

17.5

480

吊り元カバー

ポイント

A

480

45

17.5

GL

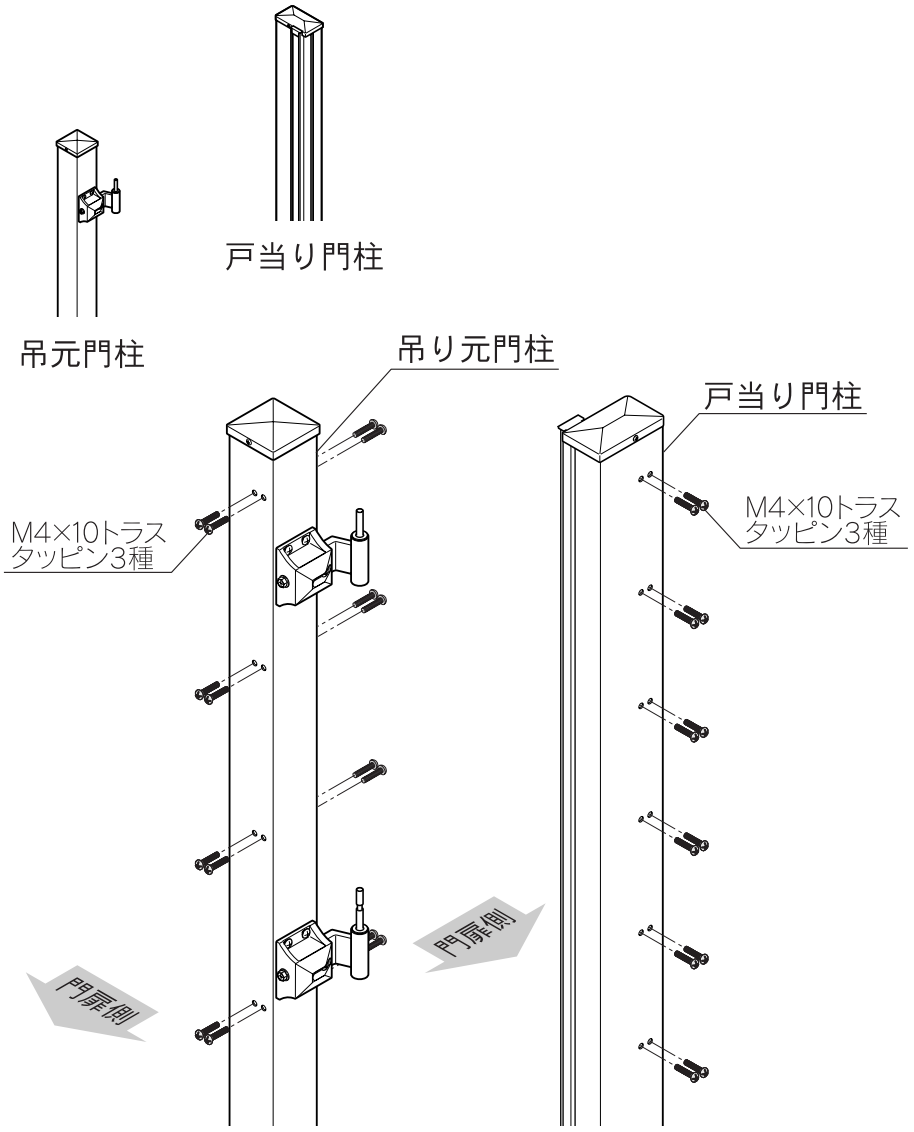
道路側

家側

7 捨てビスの取付け

1) 戸当り門柱､吊り元門柱に残ったフェンス取付け用金具の孔に捨てビスを取付けてください。それぞれの門柱は、下記のような場合に孔が残ります。

- フェンスを取付けない場合
- 吊り元門柱で、門扉が取付く側。



株式会社 LIXIL

商品へのお問い合わせは･･･

この商品についてのご質問やご相談は
下記の窓口にお問い合わせください。

お客様相談センター

0120-126-001